

TUFS-ITP 研究計画報告

中国白話小説及び戯曲の 江戸期日本における受容

都賀庭鐘の位置づけをめぐって

博士後期課程3年 及川 茜

都賀庭鐘(享保3～寛政6年/1718-1794)

- 大坂の儒医、小説家、読本作家
- 短篇小説集 : 中国白話小説の翻案を多く含む
『古今奇談英草紙』・『古今奇談繁野話』・『古今奇談莠句冊』
- 『四鳴蟬』
浄瑠璃、能の中国戯曲の形式に則る形での白話訳
- 『康熙字典』和刻(1778年)
校正、〈琢屑〉唐本の誤刻及び引用文の誤りを900条に及び訂正

「白話」と「唐話」の意義

- 白話小説: (↔ 文言小説)
 - ・当時の俗語中国語による語り物に起源を有し、講釈師が聴衆に語って聞かせるスタイル
 - ・白話使用の意義の強調
- 唐話: 明・清の口語中国語が日本に伝わったもの
 - ・訓読ではなく、原音による学習
 - ・日本語文体としての漢文ではなく、外国語としての意識

漢字文化圏における位置づけの試み (中国文学との関係から)

- 中国文学史における短篇白話小説の発展を捉え、庭鐘の翻案に至る道筋を考察
- 庭鐘の翻案において、中国近世文学に見られる白話の意義は意識されているか
- 外国語としての漢文・白話の読み書き

研究対象

- 翻案作品(「古今奇談」シリーズ)
 - ・原話(特に中国短篇白話小説)の中国文学史における位置
 - ・原話そのものが別の作品の翻案である場合、その翻案手法と庭鐘の手法との比較
 - ・同時代の他の作家による白話小説翻案作品との比較から庭鐘の手法及び選択作品の特徴を考察
- 浄瑠璃・能の白話訳(四鳴蟬)
 - ・庭鐘の白話を同時代の中国の白話と比較
 - ・語法的特徴の分析→文学言語としての達成度を考察

課題1

- 四鳴蟬の白話をどう評価するか
(元明戯曲の系譜に位置づけられるか)
 - 非母語話者の文学をめぐる問題
(中国作品をどの程度規範とするのか)
- ★華文文学、Sinophone といった現代文学のタームを参照

課題2

- 日本文学／中国文学を、使用言語によって切断するのではなく有機的に関連づけて捉える
- 庭鐘の翻案作品に、白話小説を日本語世界で発展させたという側面を認めることは可能か？

派遣概要

シンガポール国立大学(NUS)

(2009.8.1 – 2010.2.28)

人文社会科学部

YUNG Sai Shing(容世誠) 副教授

- ・中国古典戯曲の作劇法研究
- ・NUS中文図書館にて資料収集
- ・伝統行事・芸能の見学